

# 訪探市吹笛

第60回

## 芦川の石造物

芦川町は、清流芦川に沿って、上芦川、新井原、中芦川、鶯宿(おうしゅく)の4つの集落に150棟を超える兜造(かぶとづくり)民家と石垣が立ち並ぶ山間の集落です。平成19年度から進められている集落の調査で、ここは、兜造民家や石垣のほかにも歴史的景観が色濃く残る集落であることが分かってきました。

山梨県は、長野県、群馬県と並び、道祖神(どうそじん)信仰が盛んな地域です。道祖神は、悪霊や災厄が村に入らないよう村境などにまつられますが、道祖神信仰は、地域色が濃く、縁結びの神、道の神、夫婦



秋葉山灯籠(鶯宿)

円満の神、安産の神、農作物の神などの信仰を兼ねるような地域も多いようです。

道祖神には、男根を模した石棒や、丸石、双体(そうたい)などさまざまなタイプがありますが、芦川町では、丸石のものが見られます。上芦川、新井原には玉石道祖神がまつられており、中芦川では、直径1メートル程の大きな丸石道祖神がまつられています。このように大きなものは、市内でもまれです。

中芦川の宝珠寺、鶯宿の長徳寺は、甲州市塩山の向嶽寺(こうがくじ)派にあたるためか、集落内に秋葉(あきは)信仰にかかわる石造物が見られます。この秋葉権現は、防火の神として広く信仰されています。江戸時代、関東を中心に秋葉信仰が広がり、各地に石塔が立てられるようになりました。中芦川の宝珠寺前には、道祖神に隣接して、「奉納秋葉山」と刻字された石灯籠(いしどうろう)があり、側面には「享保3年(1718)の建立」を意味する「享保三癸亥九月吉日願主当村中」の文字が刻まれています。また、鶯宿の各所にも秋葉権現がまつられています。

上芦川には、馬頭観音の姿を刻んだ「刻像」と馬頭観音の文字を刻んだ「文字塔」の両方があります。上芦川の諏訪神社北側の若彦路沿いには、9体の馬頭観音が立つ



諏訪神社北馬頭観音(上芦川)

ており、左から順に大正10年、元治元年、年号不明、明治44年、年号不明、明治30年、明治30年、明治43年、年号不明とそれぞれ年号が刻まれています。また、東林寺前にも大正7年、昭和4年、昭和5年の馬頭観音があります。

上芦川東原にも刻像塔が2基、文字塔が1基あり、東原藤塚にも文字塔が2基、新井原、鶯宿などにも刻像や文字塔が見られます。芦川各地で馬頭観音を見ることができ、中には、石垣内に造られたほころにまつられているものもあります。馬頭観音は、街道沿いにありかつては馬と共存してきた芦川集落を代表する石造物と言えるでしょう。

皆さんも、芦川を散策して、これらの石造物を巡ってみてはいかがでしょうか。